



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薊町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



7月というと七夕です。七夕は中国古来の民間伝承の話がもとになっているそうです。日本には奈良時代に伝わり、江戸の時代に「五節句」の一つとなり幕府公式の祝日だったとのこと。七夕を「たなばた」と読むのは、神事で使う布を織る行為を棚機(たなばた)と呼んでいたことから、という一説です。一般に機織り上手な織姫と働き者の牛飼ひ牽牛のお話しですが、地域によっていろいろな言い伝えや伝統があるようです。願い事を七夕飾りの短冊に書いて思いを寄せる風習は、どの地域でも行われています。世界各地での紛争、子供たちや高齢者、障がいのある人々などが犠牲になる社会を何とかしたい。そうした思いを短冊に書き、願いが叶えられたらもっと住みよい世界になっているでしょうに。地域連携ネットワークみえの活動は、とてもとても微力ですが、自分たちで出来る範囲で地域社会の課題に取り組んでいきたいと考えています。今回の通信は、そうした活動の一部を紹介させていただきます。

「地域の課題を考える交流集会」を開催しました！

6月29日に「地域の交通」をテーマに交流集会を開催しました。メインスピーカーとして、お二人にご登壇いただきました。お一人目は、三重県地域連携・交通部 部長 長崎禎和 様、お二人目は三重交通グループホールディングス株式会社 執行役員・三重交通株式会社 取締役 早川正素 様にお話しをいただきました。



長崎様からは、三重県の地域交通についての現状や県民アンケートの結果をご報告いただき、三重県地域交通計画の概要をお話しいただきました。

県内の鉄道としては、JR、近鉄をはじめ、5つの地域鉄道があります。みなさん全てご存じですか。養老鉄道、三岐鉄道(北勢線・三岐線)、四日市あすなろ鉄道、伊勢鉄道、伊賀鉄道です。地域に欠かせない足ですが、輸送人員は減少傾向で苦戦されているようです。



長崎禎和部長



社団 川井代表ご挨拶



早川取締役

早川取締役からは、三重交通グループのサステナビリティの取り組みや人権尊重、働き甲斐のある職場づくりなど、さまざまなお取り組みをお話しいただきました。カーボンニュートラルに向けた取り組みとしては、ハイブリッドの連結バス、電気(EV)バス、燃料電池(FCV)バスの導入。新技術で持続可能な公共交通サービス提供と環境への対応としては、桑名市自動運転実証実験などのご紹介。

AI活用のオンデマンド交通などの実証実験にも参画され、AI技術が身近なものになりつつあります。また、健康経営への取り組みとしては、今年度は三重大学や鈴鹿医療科学大学とともに健康の促進と健康理解の向上にも着手されています。



志摩市

桑名市

今回は、市町からのご参加も多く、中でも大紀町からは服部町長がご出席いただきましたので、第1部の締めとしてコメントをいただきました。県南部は、高齢化も著しく、住民のみなさんにとって生活に欠かせない移動の手段を確保するため、創意工夫した施策を展開されていることをお話しいただきました。

第2部では、お食事を取りながらの交流で、ご参加いただいたみなさんのご縁が大いに広がったと思います。

会員間交流 / 県立看護大学教授（会員）の依頼により学生のみなさんのフィールドワーク
の場を会員の施設にて水福連携・農福連携を体験していただきました！

水福連携をアクアス(鳥羽市)にて

6月12日は、県立看護大学の学生4名が、(株)アクアス 障がい者福祉サービス多機能型事業所コラボにて、施設利用者のみなさんと作業体験を行いました。

コラボは、障がいをもった方が、社会的自立を目指したり、日頃の活動の中で作業が出来るよう支援を行っています。

右の写真は、カキ養殖ロープのクギ抜き作業の様子です。鳥羽市のカキ養殖業者と福祉事業所が連携して、平成27年度からカキロープのクギ抜き作業を水福連携事業として取り組んでいます。



カキ養殖は、ホタテの殻にカキの稚貝をつけて、ロープにホタテ板とクギを交互に付けて、ロープを筏に垂らしていきます。カキを収穫するとクギだけが残し、これを引き抜くことで再利用が可能となるわけです。

左の写真は、奥の二人はビスを入れた袋を斜めにシーラーを。手前の二人はコンセントタップにラベルを貼る作業です。



貴重な体験をさせて頂きありがとうございました！今日体験させていただいたことや鳥羽市が行っている事業のことなどをしっかりと理解し他の学生や先生方に伝え、今後に生かせたらとおもいます。



農福連携をふたみ農園（伊勢市二見町）にて

6月19日は、3名の県立看護大生が、NPO 法人 mina ふたみ農園で、農作業、加工品づくりを体験しました。



●従業員皆さん とても仲が良く、温かい現場でした。最初は皆さんとどのように接したら良いか少し緊張していましたが、野菜を収穫、皮をむいて袋詰め、出荷まで行うという初めての体験、昼食、清掃、お菓子作りと、この一日皆さんの温かさに触れ、お話ししながら過ごすうちに距離が縮まったと感じます。実習の最後に皆さんが育てた野菜をプレゼントして頂き、「素敵な看護師になってください」と言って頂いたことが本当にうれしかったです。

●野菜を育てて収穫し、梱包から配達まで全てを自分たちで行うことで責任感が生まれると思いました。同年代の子たちと一緒に仕事ができ楽しかったです。いい経験が出来ました。

●今回、私は同じ年代の利用者さんと一緒に農園の野菜を収穫したり、野菜の出荷用の宣伝プリントを共同で制作しました。晴天の暑い日ではありましたが、野菜の収穫の仕方を細かく教えて頂いたことで、私自身農業についてより興味を持てる、貴重な体験をすることが出来ました。また、清掃作業やデザート作りを協力して行ったことで、皆さんとの繋がりが深まったと感じました。



みなさん お疲れさまでした 😊